

顎骨の病変

<歯周炎による膿瘍形成>

歯の神経が虫歯や破折などで感染を起こすと、根の先端から顎の骨の中に細菌感染を起こします。病巣は徐々に大きくなり、骨を破って歯肉のほうに出ていくようになり膿の袋（膿瘍）をつくります。痛みや腫れを伴うことがほとんどで、感染が拡大すると頬や首、喉の方まで炎症が拡大し、入院や手術が必要となることもありますので、放置せずに受診をお願いします。



<歯根嚢胞>

上記に似ていますが、細菌感染から根の先端に病巣を作り、その病巣が今度は周囲に壁を作って嚢胞という袋状の病変をつくる場合があります。小さければ根の治療のみで治癒することもあります。多くの場合は嚢胞を摘出して感染を起こしている根の先端を数mm切除する歯根端切除術の併用となります。サイズが大きくなっている場合は手術にて抜歯と同時に摘出することもあります。その他、顎骨の病変には様々な種類があり、中には早期に対応することで治療や手術する範囲が小さくなることが多々ありますので早期に受診が必要です。

